



人権だより



2013年度 第4号

発行所：大分県立日田林工高等学校

発行責任者：校長 生田 茂



ぜんがくねん じんけんほーむるーむかつどう おこな 全学年で人権 H R A が行われました

1

かつ にち げつようび げんめ 7月8日(月)1限目に人権HRが行われました。学年テーマ及び内容は次のとおりです。

【1年生】「アサーション」について

アサーションとは、相手の気持ちを考えながら自分の言いたいことを主張することです。

私たちの生活のいろいろな場面で、アサーションとはどのようにするのかを学びました。



【生徒の感想】私は相手が変わると表現の仕方が変わってしまうことがあります。人見知りも結構あるので、話したことの無い人だったらノンアサーティブ（言いたいことが言えない）になり、あまり口を開きません。逆に仲の良い友達だったら、口を開くことができますが、たまに相手を傷つけてしまうことがあります。アサーティブは自分も相手も嫌な気持ちにならないと思うので、ずーっとアサーティブでいられるようにしたいです。（電気科）

【2年生】「私たちの身の周りのおかしなこと」について

「私たちの社会生活」の図を見ながら、おかしなところを探し、何がおかしいのか、何

でおかしいと感じるのか、を確認しながらどのような人権侵害になってしまうのかを学びました。



【生徒の感想】今回のH R Aでは、絵の中から人権問題を見つける作業で、誰もが見て分かる人権問題を見つけるのは簡単だった。けれど、その人の性別や身体の違いで見たり、とらえ方次第では差別につながることもあって驚いた。今までは、自分の基準で差別につながる、差別につながるかと考えていたので、これからは様々な人の立場に立って考え、知らず知らずのうちに人を傷つけてしまったりしないようにして行きたい、と思った。（機械科）

【3年生】「書かない・言わない取り組み」について

間もなく就職・進学試験を受験する3年生に、統一応募用紙制定の経緯・違反

質問の事例を通しての問題点の確認と違反質問への対応について学習しました。



【生徒の感想】昔使われていた採用選考応募書類では偏見的な内容が多く、それが部落差別や障がい者差別のような内容も見られました。昔の人は、自分の生まれた場所やさらには親の職業などが自分の採用選考の情報にされるといのは納得のいかなかったことではないかと思えます。今の履歴書は、本人が今日まで努力した内容を評価してもらえるようになってきていると思います。その代り、志望動機の欄が大きくなって、詳しく書かなくてはならないので大変だと思いが、頑張りたい。※広さの関係で一部省略しています。（電気科）



でーと 「デートDV」です



7月1日(月) 5・6限帯に会議室で、講師にカウンセラーの松木和美先生をお招きして、1年生対象の「デートDV」の講演会が行われました。2・3年生も1年生のときに聞いたことがあると思います。



さて、「デートDV」とは何でしょうか。もう一度思い出してください。

デートDVとは 結婚していない男女間での体、言葉、態度による暴力の事です。



1. 身体的暴力；相手に向かって物を投げる、たたく、蹴る、噛むなど
2. 言葉、心理的感情的暴力；汚い言葉を使う（ばか、ブス、デブ、汚いなど）無視する、嫌がらせ ストーカー、頻繁の電話、過剰な嫉妬など
3. 性的暴力；合意のない性交渉、交渉時に痛めつけたり侮辱したりするなど
4. 経済的暴力；働かせてお金を貢がせる、働かせないなどのことです。



どうしてデートDVが起きるのでしょうか？



- ・暴力を甘く見る風潮（世の中の傾向）→今問題になっている「体罰」など
- ・ジェンダーバイアス（社会的性差による偏見）→「男らしさ」「女らしさ」が考えられます。

デートDVを起こさないためにはどうすればいいの。



1. 正しい知識を学び、間違った知識を学び落とす。（男らしさ、女らしさなど）
2. 相手を尊重する対等な関係性を学ぶ
3. コミュニケーション力をつける

【生徒の感想】今日初めてデートDVという言葉を知りました。また、2001年にDVが犯罪になったというの今日初めて知ることができました。私は、今日の講話を聞くまでDVは自分の意思が思う通りにならなかつたら感情を表に出すことだと思っていましたが、DVにも歴史的背景があったり、「ジェンダー・バイアス」などの男女ともに強さを間違って理解しているなど様々な要因があるのだと知ることができました。先生が何度も「対等な関係」と言っていたのが心に残りました。お互いが対等な関係を意識し合えば、一方的に自分の意見だけを言い、相手を言葉の暴力や力の暴力で従わせるようなことは少なくなるのかな、と思いました。また、自分の意思を相手に伝えることはとても勇気があることだけど、しっかり伝えて行き、相手に自分のことを理解してもらいたいし、自分も相手のことを理解して行きたいです。（建築土木科）